



新告知温



平成二十二年度 全国労働衛生週間

全国労働衛生週間は、働く人の健康の確保・増進を図り、快適に働くことができる職場づくりに取り組む週間です。

昭和二十五年に第一回が実施されて以来、本年度で第六十一回を迎えます。この機会に自主的な労働衛生管理活動の大切さを見直し、積極的に健康づくりに取り組んでみましょう。

スローガン

「心の健康維持・増進 全員参加でメンタルヘルス」

趣旨

本週間は、国民の労働衛生に関する意識を高揚させ、事業場における自主的労働衛生管理活動を通じた労働者の健康確保等に大きな役割を果たしてきたところです。我が国における昨年度の業務上疾病による被災者は七四九一人であり、過去最少となっている。しかしながら、一般定期健康診断の結果、何らかの所見を有する労働者の割合は増加を続けており、平成二十一年は52.3%に上っています。このような状況の下、第十一次の労働災害防止計画の三年目として、労働者の健康確保対策を推進し、定期健康診断における有所見率の増加傾向に歯止めをかけ、現象に転じさせること等を目標に、危険性又は有害性等の調査等の促進、健康診断の結果に基づく措置の実施の促進、粉じん障害の防止、化学物質による健康障害の防止等を重点対策とし、関係者が着実に取り組み、労働者の健康の確保を図ることが必要です。特に我が国における自殺者数が近年三万人を超えており、そのうち約二五〇〇人が勤務問題を原因・動機の一つとしていること、仕事や職業生活に関する強い不安、悩み、ストレスを感じる労働者の割合が約6割に上がっていること、メンタルヘルス上の理由により休業又は退職する労働者が少なからずおり、精神障害等による労災認定件数が高い水準で推移していること等から、職場におけるメンタルヘルス対策の取り組みが重要課題となっている。このため、職場のトップ、管理監督者、産業保健スタッフ、労働者がそれぞれの立場において心の健康の維持・増進に取り組む、労働者の心の健康が確保された職場を実現していくことが重要である。

期間

十月一日から十月七日

主唱者

厚生労働省 中央労働災害防止協会より

《今号の主な内容》

- P① 全国労働衛生週間
- P②③ 不安全行動について
- P④ 連絡帳



発行

野田工業株式会社

東京都中央区銀座6-6-19

花菱ビル5F

TEL: 03-3572-1866

FAX: 03-3575-0420

不安全行動(ヒューマンエラー)について

(1) 行動災害はなぜ起こる

- ① 人は、元々不安全な行動をする動物である。
- ② その性格があるから人は進化してきたのである。
- ③ 労働災害を起こしたくなければ仕事をしなければ良い。
- ④ 賃金をもらう仕事をしなければ労働災害は起きないのである。
- ⑤ しかし、賃金を貰わなければ生活していくことは出来ないし、当然社会も発展しない。
- ⑥ 多くの災害は、安全管理が十分行われ、安全施設であっても人の不安全な行動により起きている。
- ⑦ 仕事で災害を起こすと、社長も、元請も、仲間も困る。
- ⑧ もちろん、自分と家族が一番困る。
- ⑨ そこで、仕事でケガをしないことを考えなければならない。



(2) 行動災害を起こさない(少なくする)ためには

①事業主は:安全管理を十分尽くし、安全設備も必要最大限の措置をして、人が不安全行動をする要因(人の行動特性、心理面から起こることなど)を見つけて、指導・確認・再指導をしていくことになる。

②作業者本人は

- A.まず、「自分の身の安全は自分で守る」を第一とし、
- B.合わせて「仲間の安全も確保する」を行動目標とし、
- C.雇用主や元請の指導を守るほか、
- D.作業の手順や作業設備・機械器具などに不安があれば、そのまま作業することなく、改善依頼をする。決してそのまま作業にかからないことが大事である。



ミス・エラーの分析(前)

要因	内容
(1) 無知・未熟練・不慣れ	新社会人・職業変更者・新規入場者に多い 教育訓練が不足・不適正な配置・作業手順が不備の時
(2) 危険軽視・慣れすぎ	故意(分かっている)・安全管理していない・偏った管理をした時
(3) 不注意・ウツカリ・ボンヤリ	環境の不備・不安全な時(照明・騒音・環境)
(4) 手抜き・省略・近道行為	面倒くさいから・邪魔だから(省力は良いが省略は?)
(5) 場面行動・集中しすぎ・集中不足・安全以外が強調	人・金・手順・道具・工期など
(6) パニック・慌てる	一つのこと集中し周辺が見えなくなる
(7) 錯覚・勘違い・思い込み	慌てると他のことがおろそかになる
その他	
(0) 疲労(ストレス)・体質・性質・心配事・人間関係・運動神経	過重労働・汗かき・肥満・家庭の事情
(0) 単調作業による意識の低下	毎日同じ作業の繰り返し昼前、終業近く
(0) 中高年の機能低下	体力過信・認識不足



ミス・エラーの分析(後)

ヒューマンエラー		主な災害事例
(1)	◇無知、経験不足等により危険が予知できない ◇未熟練の場合、判断ミスを犯しやすい ◇熟練工でも新しい建設現場に赴任早々は経験不足になる	◇未熟練オペレーターの操作ミスでクレーンが転倒する ◇足場の盛替中と知らずにその足場に乗る、固定していない床がずれて墜落する ◇経験年数に関わらず、新規の現場決まり事や安全通路の不案内等により被災する
(2)	◇「この程度の高さなら安全帯を使わなくても大丈夫と思った」これが危険軽視の代表例	◇高さが 2~1m 程度の足場から、安全帯を使う高さでもなく油断をして転落する ◇3m 以下位であれば、飛び降りられる高さと思い、油断して安全帯の使用をしないで墜落する
(3)	◇作業に集中すると、安全には不注意になる	◇玉掛け合図者が吊り荷だけに注意し、足元に気が行かず、つまずいて転倒する
(4)	◇人間は近道をしたい、面倒な手順を省略したいと言う効率的に物事を進めようとする本能を持つ	◇1 スパン隣に行けば、通路があるのに手すりを乗り越えたり、階段を通らずに足場ブレースを伝い降りて転落する
(5)	◇瞬間的に 1 点に集中すると、周囲のことが見えずに行動してしまう	◇手に持っていた工具(製品)を落としそうになり、あわててそれを落とすまいとして自分が墜落する
(6)	◇パニックになると、脳は正常に働かず、ミスを犯しやすくなる	◇ガス切断中、近くにあったスチロールに引火した。消火器を用意していたことを忘れ、慌てて足で消そうとして自分の服に着火してヤケドする
(7)	◇見間違い、聞き違いだけでなく、ど忘れ、思い込みもある	◇作業床があると思って後退、足を踏み込み外して転落する
その他	◇元請から職長、作業員へ指示が正確に伝わらないことがある ◇工期厳守が目標になると安全がおろそかになる	◇「気を付けろ」「足元に注意しろ」のように、あいまいな指示のため、実際の危険が予測できず、事故・災害を起こす ◇突貫工事で無理をして上下作業を行い、事故を起こしたり、ケガしたりする

災害の原因

人の問題	物の問題	管理の問題
○安全知識がない	○道具の欠陥	○作業手順が不良
○手抜き・横着をする	○安全施設の不備	○人員配置・構成が不良
○不注意する など	○作業環境の不良 など	○点検・整備の不足 など



連絡帳

前号で安全大会の表彰者をご紹介できませんでしたので、今回紙面最後になりますが、ご紹介させていただきます。

安全表彰

社長賞

有限会社 新井工業所 中島 洋輔
(古河赤十字病院移転工事 ダイダン(株))
(船形物流センター新築工事 ダイダン(株))
(昭和学院中高二期 体育館新築工事 高砂熱学工業(株)、(株)西原衛生工業所)



安全衛生協力会 会長賞

渡辺 義弘
(新宿NSビル改修工事 大成設備(株))



有限会社 尾形保温 尾形 和男
(がん感染症医療センター新築工事
(株)キャディックジャパン)



有限会社 小林断熱 荒谷 将史
(二子玉川地区再開発 大橋エアシステム(株))



旅行会のお知らせ

【 日時 】 平成 22 年 12 月 4 日 (土) ~5 日 (日)

【 集合時間 】 現地集合 : 18 時 00 分

宴会開始 : 18 時 30 分

【 宿泊先 】 いわき湯本温泉 吹の湯

〒972-8321

福島県いわき市常磐湯本町吹谷 48

T E L 0246-42-2158

